



平成22年 1 月 25 日

各 位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス  
 代表者名 取締役社長 片山博臣  
 (コード番号 8415 東証・大証第1部)  
 問合せ先 取締役グループ企画部長  
 成田幸夫  
 (TEL 073 - 426 - 7133)

平成22年 3 月期第 3 四半期の有価証券評価損に関するお知らせ

当社の子会社である株式会社紀陽銀行（本店：和歌山市、取締役頭取 片山博臣）において、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成22年 3 月期第 3 四半期において減損処理による有価証券評価損を計上する必要が生じたので、お知らせいたします。

○平成22年 3 月期第 3 四半期における有価証券評価損（減損処理額）

	紀陽銀行単体
(A) 平成22年 3 月期第 3 四半期会計期間（平成21年10月 1 日から平成21年12月31日まで）の有価証券評価損（減損処理額）の総額（＝イーロ）	6,371百万円
(イ) 平成22年 3 月期第 3 四半期累計期間（平成21年 4 月 1 日から平成21年12月31日まで）の有価証券評価損（減損処理額）の総額	7,969百万円
(ロ) 直前四半期（平成22年 3 月期第 2 四半期）累計期間（平成21年 4 月 1 日から平成21年9月30日まで）の有価証券評価損（減損処理額）の総額	1,598百万円

- ※ 四半期における有価証券の評価方法は、第 1 四半期から第 3 四半期までは洗替え方式、第 4 四半期は切放し方式を採用しております。
- ※ 当社グループの決算期末は、3 月31日であります。
- ※ 株式会社紀陽銀行単体における平成21年12月末のその他有価証券評価差額（保有目的区分変更にかかる評価差額を含む）は△2,674百万円（速報値）です。  
 （ご参考：平成21年 9 月末のその他有価証券評価差額△9,220百万円）

○連結純資産額・連結経常利益額・連結当期純利益額に対する割合

(B) 平成21年 3 月期末の連結純資産額	125,335百万円
(A/B × 100)	5.1%
(イ/B × 100)	6.4%
(C) 最近 4 事業年度平均（注）の連結経常利益額	4,954百万円
(A/C × 100)	128.6%
(イ/C × 100)	160.8%
(D) 平成21年 3 月期の連結当期純利益額	1,439百万円
(A/D × 100)	442.5%
(イ/D × 100)	553.5%

（注）当社は、設立後 5 事業年度を経過していないため、最近 4 事業年度の平均を記載しております。

○今後の見通し

本件の有価証券評価損につきましては、平成22年3月期通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の連結業績予想に概ね織り込み済みでありますことから、現時点における連結業績予想の修正はございません。

（ご参考）当期の連結業績見通し（平成21年11月13日公表分）

（単位：百万円）

	経常収益	経常利益	当期純利益
当期業績予想（22年3月期）	86,500	7,400	5,600

<本件に関するお問い合わせ先>  
グループ企画部 白井  
TEL 073 - 426 - 5111

以 上

（注）本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。